

# 令和3年度 福寿荘事業報告

## 1. 概要

知的障害者を受入れ、安全で健康かつ安定した生活を保障する中で、一人ひとりの特性やニーズを的確に把握し、個別の支援計画に基づき適切な支援・援助を行った。また、社会生活(地域生活)に必要な知識技能、態度の習得に努め、豊かな人間性を養い、成長向上をはかり、社会的自立をめざした。

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症感染防止に取り組み、手指の手洗い、アルコール消毒に努め、また食堂利用や活動にあたっては「3密」を回避し実施した。さらに、感染症全般の防止対策として、「感染症対策委員会」を設けた。また、感染発生時における事業を継続するため「感染時における事業継続計画」により対応に備えた。

そのほか、適切な支援の取り組みとして、「虐待防止のための指針」及び「身体拘束適正化のための指針」を定め身体拘束適正化検討委員会を設けた。

## 2. 施設運営

(1) 職員構成(令和4年3月31日現在) ( )…非常勤職員別掲

荘長	サビ管	事務員	支援員	看護師	栄養士	嘱託医	計
1	1	2 (兼務)	10 (3)	1	1	(1)	16 (3)

(2) 施設修繕等

大規模災害発生時に電力供給が停止した場合に備えて、国市補助事業として新たに「非常用電源発電設備」を整備した。

(3) 会議

会議名	内 容	実施日	構 成
運営会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設運営全般について連絡・協議、</li> <li>年間計画、方針の調整</li> <li>体制全般に関する連絡調整、問題解決</li> </ul>	随 時	荘長、課長
全体会議	業務及び支援全般に関わる検討協議	毎月1回 第3木曜 日	全職員
支援会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>各班の連絡調整</li> <li>支援内容の相互確認・検討・進展</li> <li>入所者の福祉向上と人権擁護の促進</li> <li>職員相互の資質の向上と各班間の連携</li> </ul>	毎月1回	支援課長、医務、 各班チーフ、GH世話人 栄養士

虐待防止委員会	・利用者の人権擁護について、指針の策定 ・職員研修	2回	
身体拘束適正化検討委員会	・委員会の設置及び対策の指針策定	1回	荘長、関係職員
感染症対策委員会	・委員会の設置及び対策の指針策定 ・新型コロナウイルス感染症対策関係	3回	
班会議	・支援内容、個別方針の検討・作成 ・入所者の環境整備と処遇向上の進展 ・職員相互の資質の向上と職員間の調整及び協力体制の進展 ・ケース会議(個別支援計画関係)	毎月1回	各班担当職員
給食会議	入所者の給食に関する必要事項の検討・協議	3ヶ月に1回	給食係長、管理課長 利用者、医務係長
行事会議	行事の企画・立案	随時	各行事担当

(4) 職員研修

月	研修内容	主催	開催	職種	備考
4	強度行動障害研修第1回	福寿荘自主研修	講堂	支援員	
7	施設栄養士研修 虐待防止研修	名古屋市社会福祉協議会	オンライン	栄養士 支援員	
8	権利擁護研修 発達障害研修 虐待防止体制整備講座 サービス管理責任者等基礎研修	名古屋市社会福祉協議会 県知的障害者福祉協会	同上	支援員	
9	人権・倫理研修 強度行動障害研修 感染症防止研修	県社協	同上	支援員	
1	保健衛生研修	名古屋市	同上	支援員	
11	労務管理研修 第9回障害者支援施設部会全国大会 サービス管理責任者等更新研修	名古屋市 日知協 愛知県	同上	支援員	
12	虐待防止研修 強度行動障害研修第2回(愛着障害)	名古屋市 福寿荘自主研修	同上 講堂	支援員	
1	アンガーマネジメント研修	名古屋市	オンライン	支援員	
2	虐待防止研修	名古屋市	同上	支援員	

(5) 職員勤務体制

就業規則第18条第1項にかかる勤務時間

職 種		始 業	終 業	休 憩 時 間
事務員 等		9:00	17:15	12:45～13:30
支援員 及び 作業指 導員	日勤1	9:00	17:15	12:45～13:30
	日勤2	11:15	19:30	17:15～18:00
	早 番	7:30	15:45	12:45～13:30
	遅 番	13:00	21:15	18:00～18:45
	夜 勤	13:00	翌9:15	深夜うち5時間15分

3. 利用者状況

(1) 入退所〈生活介護 定員50名〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0
在籍	41	41	41	41	40	40	40	40	39	39	39	39

〈施設入所支援 定員40名〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0
在籍	38	38	38	38	37	37	37	37	36	36	36	36

(2) 入所期間別(36人)

令和4年3月31日現在

	1年未満	1～3年未 満	3～5年未 満	5～7年未 満	7～10年未 満	10年以上
男	1	0	0	1	0	16
女	0	3	0	2	1	12
合 計	1	3	0	3	1	28

(3) 年齢別(生活介護 39人(内、3人は通所者))

令和4年3月31日現在

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳 ～	合 計	平 均
男	0	1	0	4	8	7 (1)	0	20	54.05
女	0	3	0	5	5	5 (1)	1 (1)	19	51.37
合計	0	4	0	9	13	12	1	39 (3)	52.74

最高年齢…75歳(女性) 最少年齢…20歳(女性)

## (4)障害別(生活介護39人(内、3人は通所者))

令和4年3月31日現在

障害名	知的障がい	てんかん	ダウン症候群	自閉症	精神障害			
					統合失調症	心因性妄想	適応障害	てんかん性精神不安
男	20	9	1	6	2	0	1	0
女	19	7	2	1	1	1	1	1
合計	39	16	2	7	3	1	2	1

障害名	身体機能障害				
	聴力障害	言語障害	嚥下機能障害	体幹機能障害	視力障害
男	0	7	1	2	2
女	2	2	1	1	1
合計	2	9	2	3	3

## (4)障害程度区分(生活介護39人(内、3人は通所者))

令和4年3月31日現在

区分	「3」	「4」	「5」	「6」
男	0人	6	8	6
女	1人	2	10	6

## 4. 支援内容

## &lt;1 班&gt;利用者14名

昨年度に引き続き重度知的障害・行動障害の利用者を中心とし、木工棟で活動を行なう。今年度も重点的に行ったことは利用者個々に合わせた自立課題の提供とスケジュールなどの視覚支援の充実、個別空間の充実を図った。自立課題では、個々に合わせ提供しながら前期と後期と大きく2回入れ替えを行い利用者の作業能力向上に努めた。

今年度は新たな利用者として、行動障害と精神障害(愛着障害)を併用している利用者が加わった。職員研修においても行動障害や愛着障害に関する研修を実施し利用者支援に活かしている。特に成果があったことは、自分の思いをなかなか言えず暴れることで表現していた利用者に対し言葉を引き出し自分の思いを伝えらえることに成功したことである。その言葉を基に支援を追加することに成功する。

生活支援でも同様に居室環境の見直しと視覚支援によるスケジュールボードを活用し利用者が落ち着いて、自分で次の活動の判断できる環境を整えている。

また、今年度は班としての現在も支援過程であるが事例報告を一例まとめることができた。

## &lt;2 班&gt;利用者4名

高齢利用者の班で、身体機能維持を目的に、訪問リハビリを利用して音楽に合わせた軽運動を行ない、また個々の身体状況に合わせた階段昇降等個別のリハビリ訓練、マッサージ等を行った。その他、認知症予防のため生活の中で場面を換えるよう講堂で朝礼・作

業を行ない、気持ちに刺激を与え張り合いが持てるようにした。また、余暇活動としてリハビリを兼ねたレクリエーションやティータイム、ドライブや、ドライブスルー、デリバリーを利用したりするなどして日々の生活に楽しみを持てるよう取り組んだ。健康面ではヤクルトを購入し毎朝班朝礼時に飲み免疫力強化に努めた。また、身体障害を主とする施設へ1名移行した。入院等体調面では、慢性偽性腸閉塞のため入院し逝去された方が1名、腰椎圧迫骨折・右人工関節挿入で入院が1名であった。退院後は、生活環境の見直しをし、安全な生活が行えるよう居室場所の変更、行なってはいけない動作の確認・徹底など、本人の身体状況に合わせ対応を行った。

### ＜3 班＞利用者20名

中軽度知的障害・精神障害・自閉症等様々な利用者に合わせて外注作業・自立課題・洗濯物の仕分け作業・施設内の清掃活動などに取り組んだ。1日のスケジュールを視覚的に伝えるため絵やイラストを使用しどの利用者にも理解できる形に変更した。

日々の活動の中で役割分担を決め利用者個々に合った役割を担い取り組んでもらう機会を作るとともに役割を理解し他者と関わりを持つことで班員の一人であること、他者を意識して活動できるよう活動内容を設定した。体力作りのため、散歩は個々のペースや体力に合わせて距離や時間を分け無理なく継続して行えるよう配慮し体力維持に努めた。必要な方には、訪問リハビリを利用しマッサージや運動を行った。

余暇活動では、DVD鑑賞、ドライブやドライブスルー、テイクアウトなどを活用したティータイムなどコロナ禍でも楽しめる形での余暇を提供した。

## 5. 文化・余暇活動

利用者一人ひとりが自分の趣味趣向を有意義に発揮できる場を提供し、自己表現できるように支援した。また、サークル活動や自治会活動を取り入れ、本人にとって楽しく生甲斐となるよう自分の発想で展開していける力を発揮できるように支援した。

### (1) 荘生自治会

＜総 会＞…役員会で議題を提示し毎月1回の全体総会で討議した。利用者から出された意見に対し、優先順位をつけ生活の中に反映させた。

＜誕 生 会＞…利用者全員及び職員で誕生者を祝う会として毎月1回実施した。

＜奉 仕 活 動＞…毎月1回、自主的活動として、施設内の環境整備を行なった。

＜自治会喫茶＞…新型コロナウイルスの感染防止のため利用者主催の飲食の活動は自粛した。

＜そ の 他＞…役員は、利用者代表として責任を持ち施設生活を送る上で役割を分担して行なった。

### (2) サークル活動

利用者からの希望をもとに、ドライブ、カラオケ、映画・ビデオの3種類のサークル活動を年4回行なった。趣味的活動、余暇的活動などを通じて、利用者が施設生活に楽しみと張りを持てる場を提供すると共に、余暇時間の充実を図った。

### (3) その他

利用者からの要望に対し適時必要な支援を行なった。

## 6. 行 事

- ・昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症感染防止のため、利用者のみ参加する行事をした。

### 〈大行事〉

実 施 日	内 容	実 施 状 況
7月30日(金)	夏祭り	福寿荘講堂・食堂にて実施。キッチンカーによるスイーツの提供やゲームなど催しものを行い、また屋外での花火などコロナ禍でも夏の夜の風物詩を楽しめる内容を企画し開催した。
10月1日(金)	運動会	福寿荘グラウンドで玉入れやパン食い競争を行い、利用者が体を動かしながら楽しんでもらえる機会とした。
11月9日(火)	秋まつり	新型コロナウイルス感染防止の観点から、荘内で移動動物園を招き小動物と触れ合い、またキッチンカーによるラーメンの食事、荘内での買い物体験など楽しんだ。
12月10日(金)	クリスマス会	利用者は正装し、職員はサンタに扮して、パーティー食を食べながら、一年間の思い出を振り返るスライド等全員でクリスマス会を盛り上げる内容となった。

### 〈小行事〉

実 施 日	内 容	実 施 状 況
4月	花 見	昼食やおやつを楽しみながら実施。
7月	七 夕	短冊に願い事を書いて笹へ飾った。
9月1日(水)	炊き出し訓練	災害時の避難所を想定し、非常食を体験した。
3月30日(火)	慰労会	頑張った利用者の方を表彰した。食堂・講堂に分かれ美味しい食事をとり、一年の労を労った。

## 7. 地域交流及びボランティア・実習生の受け入れ

新型コロナウイルスの感染防止の為、地域との交流は自粛した。また、行事縮小のため

ボランティアの受け入れは行わなかった。

## 8. 給食

調理業務については、委託業者との連絡・調整に努め、利用者の嗜好等を考慮し適正な栄養の確保と共に盛り付けや味付け等、十分に配慮した。また、食品衛生にも細心の注意を払った。

なお、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、食堂利用時の人数を半数とするなどの対策をとり、密な状態を解消した。

### (1) わくわくランチ(毎月1回)、選択メニュー(毎月1回以上)

給食の弊害である「与えられる」という食事意識を少しでも解消する為、バイキング方式などのメニューを積極的に取り入れた。それにより自らの選んだものを食べるという自己決定の機会を増やすと共にマナーの練習を行ない、継続して「楽しい食事」を提供できた。

### (2) 治療食

肥満食、刻み食に加え、疾病の状況に応じた献立を取り入れ健康面の配慮を行なった。

### (3) 栄養指標

#### ① 栄養摂取目標値

エネルギー	タンパク質	脂肪	Ca	Fe	VA	VB1	VB2	VC
1950	60	49	660	9	780	1.1	1.2	110
kcal	g	g	mg	mg	μg	mg	mg	mg

#### ② 栄養摂取状況

	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	糖質 (g)	Ca (mg)	Fe(mg)	ビタミン			
							VA (μg)	VB1 (mg)	VB2 (mg)	VC (mg)
4月	1947	73.6	53.1	275.6	728	13.5	713	2.38	1.22	114
5月	1947	75.7	52.0	277.8	709	13.8	660	2.33	1.24	117
6月	1969	74.6	53.8	279.5	688	13.3	724	2.37	1.24	111
7月	1944	73.2	51.8	278.9	724	13.2	756	2.25	1.25	112
8月	1859	73.8	53.1	279.6	730	14.2	682	2.33	1.24	113
9月	1947	73.9	53.2	276.2	702	13.2	682	2.34	1.23	113
10月	1926	73.2	53.1	272.7	720	13.7	654	2.27	1.21	109
11月	1915	72.5	50.3	276.4	697	13.1	614	2.21	1.24	104
12月	1931	73.9	50.9	277.7	714	13.0	678	2.30	1.23	116
1月	1933	75.0	51.3	276.1	712	14.0	664	2.25	1.23	108
2月	1965	72.3	52.8	283.9	675	12.7	659	2.36	1.21	121
3月	1927	73.0	51.2	276.6	718	13.9	682	2.25	1.23	111
平均	1943	73.7	52.2	277.6	710	13.5	685	2.30	1.23	112

#### ③ 食品群別摂取目標

穀類	いも類	砂糖	油脂	豆類	魚介類	肉類
305	50	13	17	65	65	55
卵類	乳類	緑黄色野菜	果実類	淡色野菜	海藻	
40	200	120	100	230	6	

④ 栄養摂取状況

	穀類 (g)	芋類 (g)	砂糖 (g)	油脂 (g)	豆類 (g)	魚介 類(g)	肉類 (g)	卵類 (g)	乳類 (g)	緑黄 色野 菜(g)	淡色 野菜 (g)	果実 類(g)	海藻 (g)
4月	294.7	44.7	8.5	20.1	75.6	76.7	77.0	24.0	132.0	152.4	222.4	46.2	6.3
5月	313.7	51.5	9.5	18.4	74.6	88.9	71.5	25.7	132.4	135.5	222.6	60.9	5.7
6月	297.4	48.0	9.6	18.6	69.8	81.6	76.8	25.7	109.0	131.0	210.9	60.1	6.3
7月	312.5	41.4	8.4	19.8	65.2	77.9	66.9	32.6	143.6	149.4	221.0	58.9	2.4
8月	302.7	43.1	9.2	19.7	72.0	78.8	75.2	30.3	139.2	137.8	222.8	57.9	7.5
9月	312.2	40.7	8.5	19.5	75.6	74.8	74.1	28.8	119.5	138.5	206.6	70.4	4.7
10月	302.2	36.2	7.4	17.2	68.6	72.5	78.6	29.9	125.6	130.1	211.2	64.2	4.7
11月	299.8	49.0	7.9	16.8	57.6	71.9	72.6	33.4	146.6	125.0	203.6	49.0	5.6
12月	301.3	48.2	8.0	17.0	65.5	80.6	70.1	32.9	133.0	135.2	214.5	59.7	3.8
1月	297.7	45.9	9.0	18.5	75.4	77.3	74.6	32.9	121.9	120.2	225.6	58.7	5.4
2月	299.0	57.3	8.4	21.0	50.5	69.7	81.4	26.0	128.1	126.9	213.4	66.4	3.7
3月	306.4	38.6	9.1	15.7	72.0	73.2	70.4	31.4	125.1	129.9	213.4	53.5	5.1
平均	303.3	45.4	8.6	18.5	63.1	77.0	74.1	29.5	129.7	134.3	215.6	58.8	55.1



## 9. 保健衛生管理

### 年間検診等実施状況

月	検診等内容	利用者	職員
6	歯科検診	入所者	—
6～7	新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種(1、2回目)	入所者・通所者	全員
10	定期健康診断	入所者	夜勤者等
11	インフルエンザ予防接種	入所者・通所者	任意
1	新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種(3回目)	入所者・通所者	全員
2	定期健康診断	入所者	全員
毎月第4木曜日 嘱託医回診			

## 10. 短期入所事業・日中一時受入事業

居宅において介護を行う者の疾病その他の理由により、宿泊による短期入所を必要とする障害者の方の支援を行った。また、日帰りの支援を希望する障害者の方については、日中一時事業により受け入れを行った。短期入所事業、日中一時受入事業合わせての定員4名で利用率は15%であった。

### (短期入所事業利用実績)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	3	0	2	1	1	1	2	2	1	1	1	1	16
	37	0	13	1	11	6	25	32	28	1	3	3	160
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	0	2	1	1	1	2	2	1	1	1	1	16
	37	0	13	1	11	6	25	32	28	1	3	3	160

(上段:実人数、下段:利用日数)

(日中一時受入事業利用実績)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	1月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	4	3	2	5	6	5	5	6	6	5	6	4	57
女性	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	3	4	0	0	0	7
合計	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	14
	4	3	2	5	6	5	5	9	10	5	6	4	64

(上段:実人数、下段:利用日数)

## 11. 地域生活支援活動 (グループホーム・自立生活者)

年間を通じ、新型コロナウイルス感染症感染防止に留意し、病気による静養、通院等、緊急対応を行ない、地域生活者の心身の健康維持に努めた。

## 12. 防火・防災管理

火災・地震等の災害対策については、入所者の安全を最優先とし、特に大規模災害を想定した防災体制の強化を計った。更に、各職員の責任分担を明確にした上、年間計画に基づく各種場面(日中及び夜間)を想定した防災訓練を行なった。

<防災訓練実施状況>

月	訓練教育等種別	実施内容
5	職員 防災教育	防災設備・機器の取扱いや、防火・防災計画の説明及び指導
6	消防用設備点検	16日 総合点検
6	通報・連絡 地震発生想定避難訓練	27日 地震想定 消防組織表に基づき実施
9	地震発生想定避難訓練 避難	1日 大規模地震が発生したとの想定
	炊き出し訓練	
11	消防用設備点検	4日 機器点検
	通報・連絡・初期消火 火災想定避難訓練	26日 日中火災想定 消防組織表に基づき実施
2	通報・連絡・初期消火 火災想定避難訓練	24日 夜間火災想定で実施 消防組織表に基づき実施